



子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」
フラグシップ園会報
(2013年12月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



2013年、最後の子森通信をお届けします。
共に創り上げてまいりました「子どもの森づくり運動」にとって、
今年は本当に実りの多い年となりました。
来年はそんな成果を踏まえて、さらなる飛躍の年にしたいと思っております。
ひきつづき協働いただけます様お願い申し上げます。
そして、新年が皆様にとって、今年以上に充実した一年となります様お祈り申し上げます。
(写真:カービング作品と東北のどんぐりの苗木/「エコプロダクツ2013」)

(目次)

1. 子どもの森づくり運動2013
 2. エコプロダクツ2013レポート
 3. 事務局からのお知らせ
- どんぐり博士の育苗講座 2013～基本編⑫～

■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

■「子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- ・特別協賛 : 日本郵政グループ
- ・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟 (社)大谷保育協会
(順不同) (社)国土緑化推進機構 NPO法人C・C・C 富良野自然塾
全国森林インストラクター会 NPO法人自然体験活動推進協議会
NPO法人MORIMORI ネットワーク (社)日本オート・キャンプ協会
(株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部 保育環境研究所ギビングツリー



1. 子どもの森づくり運動2013

「子どもの森づくり運動」2013年の主な活動をふり返ってみました。

○2013年5月 グリーンウェイブ2013に参加
「子どもの森づくり運動」では、生物多様性条約事務局が推進する、国際生物多様性の日に世界各地の子どもたちが学校や地域などで植樹等を行う「グリーンウェイブ」活動に今年も参加しました。日本における実施期間の2013年3月1日～6月15日の間で、森づくり活動を実施した7園の活動をエントリーしました。

活動の詳細は、環境省のホームページにて紹介されています。⇒<http://www.greenwave.go.jp/>



○2013年6月 ロハスデザイン大賞受賞

「東北復興グリーンウェイブ」の活動が、ソーシャルデザインをテーマに開催された「第8回ロハスデザイン大賞2013」の「コト」部門において、大賞を受賞しました。「ロハスデザイン大賞」は、一般社団法人「ロハスクラブ」が主催し、ロハスを体現しているヒト・モノ・コトを対象とした審査・投票により、毎年6月に大賞を発表している、国内でもっとも権威のある環境活動アワードです。

○2013年7月 OMEP世界大会に参加
2013年7月11日～13日の3日間、中国の上海で OMEP世界大会が開催されました。「子森ネット」では、「子どもの森づくり運動」及び同運動「東北復興グリーンウェイブ」の取り組みを、世界の幼児教育の最前線に発信することを目的に河内インストラクターがプレゼンテーションを実施し、大きな評価をいただきました。



○2013年10月 東北復興グリーンウェイブ

2013年10月15日 岩手県山田町「豊間根保育園」において、「東北復興GW」における二回目の種拾い

活動が実施されました。集められたどんぐりは、まず、豊間根保育園の子どもたちによって一粒ずつプランターに植えられました。残りは事務局がお預かりして、全国の幼稚園・保育園のお友だちに届けられました。来年は、いよいよ第一回目の植樹活動の年です。

2. エコプロダクツ2013レポート

「子どもの森づくり運動」では、今年も国内最大の環境展「エコプロダクツ2013」に出展しました。

今年、NPOコーナーのメインブスの他に、特別ご協賛企業「日本郵政グループ」ブースでのワークショップ、さらに、「森から始まるエコライフ展」コーナーへのポスター掲示という三カ所での積極的な活動発信が実現しました。各ブースでは、本運動のサポーターであるチェンソーカービング(彫刻)世界チャンピオンの栗田宏武さん作の「どんぐり君」や森の動物たちのカービング作品が来場者を出迎えてくれました。



NPOコーナー・メインブース



多くの子どもたちが訪れてくれました。

「日本郵政グループ」のブースでは、子どもたちに「東北復興グリーンウェイブ」の活動で東北から送られて来たどんぐりの種蒔き体験と、間伐材の再生紙をはぎを使って森や木をテーマに絵を描いてもらい、森の大切さを考えてもらうワークショップを実施しました。(「日本郵政グループ」ブースで子どもたちが植えたどんぐりの成長については、「子どもの森づくり運動」のホームページにて経過レポートします。) 出来上がった絵はがきは、切手を貼って、子どもたちの大切な宛先にブース内ポストに投函してもらいました。ところで、今年も神奈川県フラグシップ園「渚野辺保育園」のスタッフが、手づくりの紙芝居を携えてワークショップの心強い応援団としてかけつけてくれました。ありがとうございました。



ワークショップ風景



東北のどんぐり種蒔き体験



再生紙を使った絵はがきづくり



投函されたはがきは、エコプロ開催期間限定の小型記念日付印が押印され届けられます。



「森から始まるエコライフ展」では「子森ネット」の活動を紹介しました。



栗田氏作どんぐり君

3. 事務局からのお知らせ

1)「子どもの森づくり運動」東北復興グリーンウェイブ(「東北復興GW」)植樹地情報

○全国の「東北復興GW」参加園にてポットやプランターに植えられ、育ててられている東北のどんぐりの苗木は、2014年5月22日に岩手県山田町に植えられます。事務局では、地元山田町役場のご担当者と植樹フィールドについて協議させていただいてまいりましたが、先日、植樹フィールドの予定地が決定しました。

場所は、山田町の南端、大槌町との境に位置する小さな溪流に沿った一画です。(住所:岩手県下閉伊郡山田町船越)

○今回の植樹フィールドは、原則として仮植えの苗畑フィールドとして活用させていただきます。全国から送られてくる苗木は、3年目のまだ若い苗木ですので、この苗畑でもう少し大きく育ててから、山田町の緑の復興に役立つ場所に植え替えられる予定です。

○フィールドの現況(2013年10月現在)は、草や樹木に覆われており、以前、伐採された丸太のかたづけも必要と思われます。

そのため、来年の植樹日の前日(2014年5月21日)に、地元山田町の三つの保育園さんの職員、保護者の有志を核に、全国にサポーターを募ってフィールドの整備作業を行います。詳細は、当通信新年2月号にてご案内申し上げますので、よろしければご参加下さい。



植樹地地形図(提供:山田町農林課)

2)ホームページ掲載用活動情報やレポートをお送り下さい。

事務局ではホームページを通じて皆様の活動を積極的に発信させていただきたいと思っております。活動情報やレポート、写真をお送り下さい。森づくり活動に限らず、恒例の行事など、園としての活動風景であればなんでも結構です。

3)事務局年末年始の予定

事務局は、2013年12月28日(土)～2014年1月5日(日)の期間、お正月休みとなります。ご了承ください。

●どんぐり博士の育苗講座 2013～基本編⑫～

1月から基本編として、毎号その時節に即した内容に心がけ、育苗についての基本を記してきました。気がつけば今回が12回目です。1年間の育苗について大ざっぱに網羅できたのではと感じています。しかし、苗を育てたら終わりではありません。植樹して活動の1サイクルが終了ですので、この基本編でも植樹について記さなければなりません。そこで最後は植樹について記して基本編を閉じたいと思います。でも、植樹については、伝えたい事が沢山ありますので、今回から数回に分けて記します。

*どんぐり博士:河内和男(森林インストラクター)



基本編の最終テーマ、植樹についての1回目です。

限られた紙面なので今回は手短かに記せる、植樹の時期についてです。

ここで言う時期には二つ意味を含めました。

①植樹をするのに適した時期(季節)は何時か?

②植樹に適した苗になるには、どのくらいの期間育てる必要が有るか?

の二つです。

①は一般に春植えと秋植えの二つの時期があるとされます。具体的に記すと、3月～5月に梅雨の期間をプラスした時期と、落葉樹なら葉が色づく10月～12月です。両方とも苗の活動があまり盛んで無い時期です。

②の苗を育てる期間ですが、子森の活動で実施している3年目の植樹は、一般論としては最も短い育苗期間です。

3年目に必ず植樹しなければならないわけではありません。条件の厳しいところでの森づくりでは、5年間ほど育てた苗を植樹している例もあります。継続して森づくりが行える場合は、長く育てた苗も混ぜて植樹してみるのも良いでしょう。